

I-A98

WWWを用いた印象に残る橋梁のイメージ調査

信州大学工学部 正会員 山本 太郎
信州大学工学部 正会員 清水 茂

1. はじめに

本研究は、人々の脳裏に焼き付いている橋と、その橋のイメージを明らかにし、橋梁の景観設計への基礎情報を提供するものである。

橋梁の景観設計においては、橋であることを感じさせない橋を目指すものと、橋であることを強調する橋を目指すものがあると考えられる。後者の場合、広報活動なども含めて、いかに土木、橋梁を印象づけるかを考える必要がある。

ここで調査する、人々の脳裏に焼き付いている橋とは、すなわち、人々の印象に残る橋のことである。このような橋梁を知ることによって、橋梁の景観設計の際の考慮すべき点、あるいは重視すべき点を探ることができる。

橋梁景観に対する評価は、橋梁などに詳しい橋梁関係者と一般の人々では意識が異なるという指摘がされている¹⁾²⁾。しかし現状では、橋梁の景観設計はほとんどの場合、設計者や一部の有識者など、限られた専門家によって行われており、一般の人々の意見が反映される場合は少ない。

我々は一昨年、一般の人々の橋に対するイメージを明らかにするため、被調査者を長野市内の人々に限定し、調査を行った³⁾。この調査では地域を限定したため、この地域ならではの傾向がみられた。そこで今回、対象とする母集団を拡大するため、WWW空間でのアンケート調査を実施した。

2. 調査の概要

アンケート調査のWebページを閲覧したとき、被調査者は次の手順で回答を行う。

①橋をひとつ思い浮かべる

図-1にアンケート調査における最初のWebページを示す。被調査者は、まずこのページで、いっさいの前提条件なしに、「橋」という言葉から思い浮かんだ、橋のイメージを思い浮かべる。ここで思い浮かべられる橋は、過去の経験や情報など、強い印象を残す橋であると考えられる。

②思い浮かべた橋の名前と、思い浮かべた理由を回答する

被験者にわかる範囲での、思い浮かべた橋についての情報と、その橋を思い浮かべた理由を回答していただく。橋の情報の回答項目は、橋名、橋の所在地、橋の利用頻度などである。思い浮かべた理由については、自由で率直な回答を得るために、文章での自由回答とする。

③思い浮かべた橋のイメージを回答する

対比する言葉を一組とした「暖かい-冷たい」「硬い-柔らかい」「不格好-美しい」「嫌い-好き」「周囲から目立つ-周囲にとけ込む」の5項

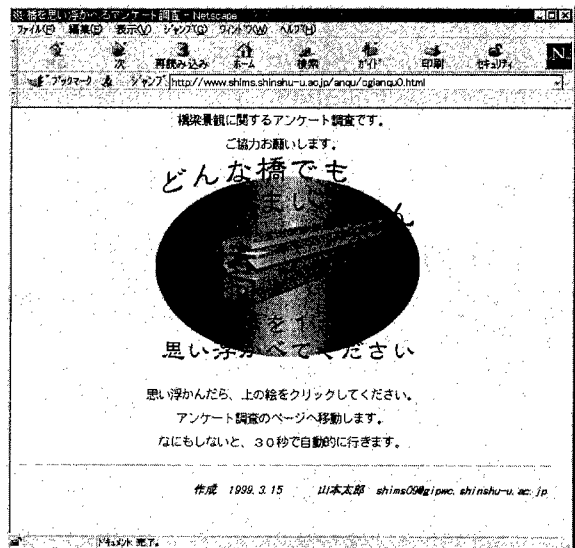


図-1 最初のWebページ画像

橋梁、印象、WWW、アンケート調査 〒380-8553 長野県長野市若里500 TEL(026)269-5294

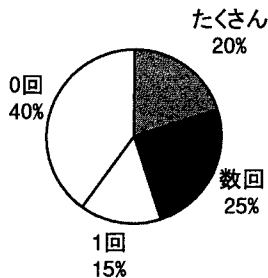


図-2 橋の利用回数

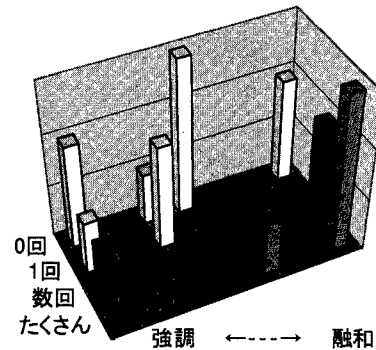


図-3 橋の利用回数による橋と背景との関係

目について、7段階で回答する。この5項目は、被調査者の負担を極力減らすために、4)の調査を参考に選択したものである。

④被調査者の属性を回答する

調査者の属性として、性別、年代、居住している都道府県、橋を利用するときの交通手段を回答する。

⑤橋に対する意見、要望、および、このアンケート調査に対する感想を回答する

⑥回答を送信する

3. 調査結果

本調査は現在、<http://www.shims.shinshu-u.ac.jp/anqu/index.html> にて継続中である。本調査の性質上、現在までに非常に多岐にわたる回答が得られている。いくつか例を挙げると、よく使っている身近な橋である回答や、有名な橋を思い浮かべた回答があり、また空想上の橋を思い浮かべている回答もある。

本稿では、紙面の都合上、調査結果のうち、思い浮かべられた橋の利用回数と橋梁と背景の関係について、現在までの調査結果を報告する。

図-2は、思い浮かべた橋を被調査者が利用したことのある回数である。この図から、利用回数が0回である回答がもっとも多く、利用回数が1回であるものを含め、ほとんど利用したことがない橋を思い浮かべている人が半数以上を占めていることがわかる。3)の調査結果では、利用回数が0回と1回の橋を思い浮かべた被調査者は合わせても2割程度であり、本調査の結果と異なる傾向を示している。

また、図-3は橋の利用回数による橋と背景との関係をクロス集計したものである。この結果より、利用回数の少ない橋を思い浮かべた被験者はその橋を背景から強調されていると感じ、一方、利用回数の多い橋を思い浮かべた被験者は橋梁と背景が融和していると感じられる橋を思い浮かべる傾向が見られる。

4. まとめ

本調査によって、強く印象を与える橋とはどのようなものであるか、明らかにすることができた。本稿執筆以降の調査結果も含め、その他の結果などの詳細は当日発表する。

最後になりますが、本調査にご協力いただいた方々に、感謝の意を表します。

【参考文献】 1) 山田, 前田, 山本, 清水: 橋梁の審美性に関する意識調査、土木学会第51回年次学術講演概要集、IV-356, pp. 712-pp. 713, 1996. 9 2) 川上, 村山, 日野, 太田: 都市高架橋の形態評価に専門知識の有無が及ぼす影響、土木学会第53回年次学術講演概要集、I-A284, pp. 568-pp. 569, 1998. 10 3) 山田, 清水: 橋梁景観に関する意識調査、土木学会中部支部平成九年度研究発表会講演概要集、I-62, pp. 121-pp. 122, 1998. 3. 6 4) 山室謙一郎、山本太郎、清水茂: 感性工学手法による既存橋梁のイメージ調査、土木学会中部支部平成十年度研究発表会講演概要集、I-17, pp. 43-pp. 44, 1999. 3. 5